

## 暮らしの基盤

御殿場市立南中学校3年 チャクジュ アイシェ

私は日本とトルコのハーフである。私が幼い頃、トルコに住んでいた時のことである。家族と海沿いの町を散歩していたら、「私達にお金を恵んで下さい」と貧しい親子が食品トレーを手にこちらに寄って来たのだ。私はその初めての出来事に驚いた事を今でも覚えている。その他にも、道がでこぼこだったり町のゴミ袋が回収されずに放置してありゴミが散らかっている所を目にした事もあった。しかし、日本に帰って来てからはそういった事を体験した事はない。道路が古くなれば工事をしているし、毎週決まった曜日にゴミの回収をする。このトルコと日本の環境の違いの原因を調べてみると、「税」が関係している事が分かった。

国民が納めている税金は道路の整備や家庭から出るゴミの処理にも使われている。日本ではこれが当たり前だが、トルコでは地域によって経済格差があるため、町のために使われる税金の金額も異なり、環境に不備が出てしまうんだと思う。これらにかかる税は消費税などでまかなわれている。

私は、様々な税の種類の中で一番身近なのは消費税だと思う。二〇一九年十月から消費税率が十パーセントに引き上げられ、引き上げられた分の消費税は国民の全世代の社会保障のために使われているらしい。また、私達はまだ子供だから税に対して深く関わっていないというわけでもなく、私達でも消費税を払っているため、小さな力だとしても、社会に貢献しているのだ。

幼い頃にいったトルコの町は十年以上前だから、今はどうなっているかは分からない。もしかすると日本と同じくらいに整っていて、問題が解決されているかもしれない。しかし、どの国でも税の課題を抱えている。学校で教科書を使って勉強が出来たり、住んでいる町の安全を守ってくれる人がいるという事は、陰で税がはたらいている証拠だという事だと思う。今の日本は物価の上昇や増税の不安があるが、それと同時に私達は税に支えられている事を忘れないようにしたい。

「税が成り立っている日本に生まれてよかった」よりも、「税に対して悩み・課題を抱えている人々を見捨てない」と考える事が本当の「税への恩返し」なのではないか。